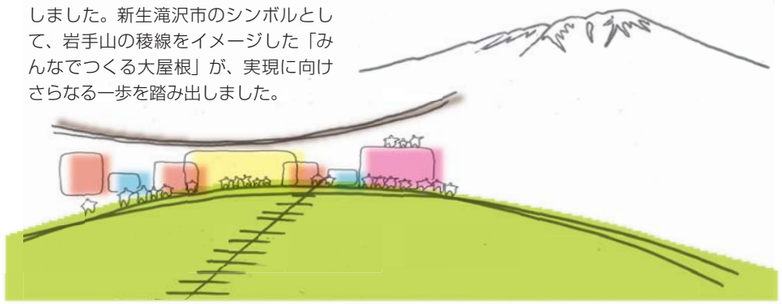
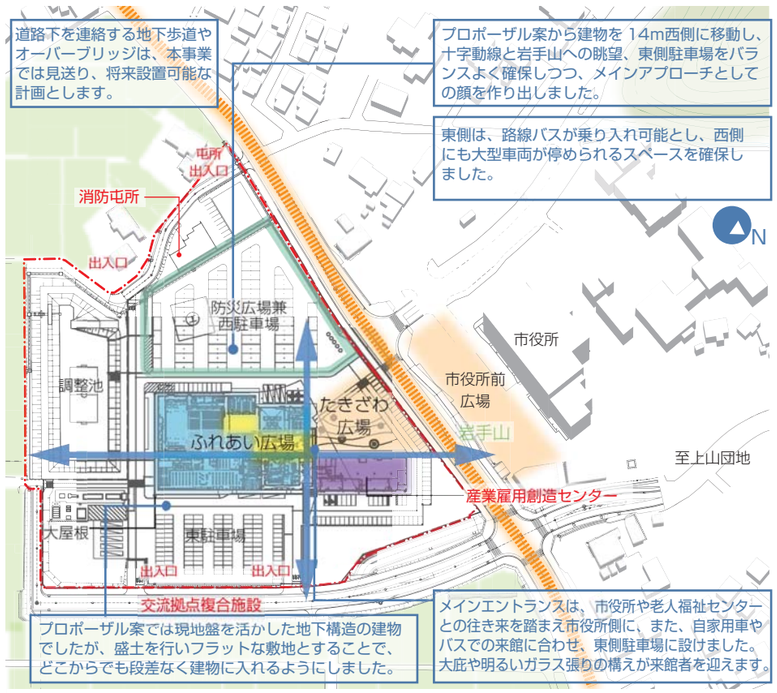
みんなでつくるふれあいの大屋根

平成 24 年夏、「滝沢村交流拠点複合施設等設計業務プロポーザル」にて選定された案を基に、建設推進委員会、建設推進プロジェクトチーム会議、作業部会ワークショップなどで議論を重ね、また、ユニバーサルデザインの専門家やホールの専門家などの意見を聞きながら、今回実施設計がとりまとめられました。
平成 26 年 1 月に滝沢村は滝沢市に移行しました。新生滝沢市のシンボルとして、岩手山の稜線をイメージした「みんなでつくる大屋根」が、実現に向けさらなる一歩を踏み出しました。



あたらしい交流のカタチを目指した「まちなみ」形成の実現

- 敷地内には周辺住民の日常動線である小道が南北東西に通っていますが、それを十字の動線として室内に取り込み、どこからでも気軽に入れる施設とします。
- 動線にそって各々の部屋をまちなみのように配置することで、住民の交流が生まれ、深まります。
- さらに、南北の軸線上には、みんなの活動を見守るかのようにそびえる秀峰「岩手山」を眺望することができます。
- 本施設へのアクセスは、交通量の多い県道からの直接の出入りを避け、新しく整備される交差点（右折レーン付）及び新設の市道から安全に出入りできる車両動線としました。



たきざわ広場：
市役所前広場と一体的に利用できるもので、市の中央広場として整備します。
産業雇用創造センターと複合施設に直接面するように配置することで、各種イベント時には建物と広場が一体となって機能します。
また、県内でも有数の交通量を誇る県道から多くの視線を受けながら、たきざわの魅力を効果的に発信することができます。
うるおい空間を演出するため、一部を緑地として整備します。

滝沢総合公園との連携：
本施設内の飲食やイベント機能と総合公園のレクリエーション機能や花と緑を連携し、家族や仲間で 1 日遊べる居心地のよい施設群を提供します。

災害時も連携する「災害に強いまちづくり」：
滝沢市役所、交流拠点複合施設、防災広場の３つの施設が相互に補完し連携します。複合施設は、複合的防災拠点として、消防、警察や自衛隊、医療関係者やボランティアなどの活動支援機能と共に、高齢者や障がい者などの要援護者の避難場所、支援物資の一次保管などの機能を持ち、防災広場は、災害時に自衛隊や救援物資輸送トラックの駐車場、災害用仮設テント、災害用マンホールトイレが利用でき、また、消防訓練ができるように計画します。

産業雇用創造センター：
「たきざわ広場」に直接間口を面し、県道からの視認性を高め、市役所との連携や複合施設との連携に優れた配置とし、たきざわのアンテナショップとしての機能を担います。また屋上にはテラスを設け、周囲の山々や自然を感じながら景観を楽しむことや、チャグチャグ馬コなどのイベントを鑑賞することができます。

消防屯所：
主要交差点から離れた配置とし、緊急車両の出入を容易にします。
防災広場と隣接させ、災害時の活動拠点とします

メインエントランス

エントランス（たきざわ広場側）

大屋根のもとに集う　　市民のよりどころ (寄り拠) となる施設

- いつでもにぎわい溢れる施設となるよう、施設の中心になる位置に交流の要となる「ふれあい広場」を配置しました。
- 「ふれあい広場」は、ガラス壁を通して岩手山が見え、県道側からは中の様子が見え興味を引き立てるように計画しました。また、大階段が 2 階に続いており、開放感を引き立てます。
- トップライト、ハイサイドライトからの日だまり、景色のよい場を建物の中心に置き、若者にとってアクティビティとにぎわいあふれる施設、お年寄りにとって静かで長時間居られる施設、子育て世代にとって安心して子供を遊ばせることができる施設を目指します。

大屋根の下で演じる　　市民がワクワクする施設

- 大屋根の下で、中と外が一体的に活用できるよう数々の工夫を試みました。
- 施設のほとんどが一階であるため、一つの町のように移動することができます。それは、外からアクセスしやすいふれあい広場、ホワイエと繋がり、大ホール、小ホールの壁を移動させることでさらに広がり、多様なイベントに対応できます。
- 建物から出ると「たきざわ広場」が広がり、活動しやすい舗装空間とうるおいのある緑地で構成し、飲食、休憩など様々な活動が可能です。
- 「たきざわ広場」には 80m×80m の防災広場が隣接しており、チャグチャグ馬コや防災行事などのイベント時は両方で約 9000 ㎡の大空間を提供することができます。

大屋根とともに暮らす　　環境にも自然にも優しい施設

- 大屋根の下に諸室を配置し、夏や中間期は２階ハイサイドライトによる自然の風の導入により涼しい風の通り抜けを作り出します。また冬は２階ハイサイドライトによる日射エネルギーにより、太陽光を引き入れるハイサイドルーフアトリウムとし、あたたかな空気を循環させる空調システムにより省エネにも寄与します。
- 大屋根の下に各室を機能的に配置することで、基本計画時の複合施設 5,000 ㎡、産業雇用創造センター 900 ㎡を守りながら（設計値はそれぞれ 5,016 ㎡と 899 ㎡）、使いやすく安らぎのある空間を実現しました。
- 建物のボリュームは大屋根の稜線により周囲の風景になじんだ景観とします。

大屋根にまもられた安心安全の施設　　市民をまもる施設

- 避難受け入れ拠点として、水、エネルギーの 72 時間自給を最低限確保します。
- 降雨時・積雪時にも利用しやすい施設として、駐車場を施設になるべく近いところに配置した上で、建物の回りを通路とし、大屋が掛かっていることで、移動がしやすくなります。障がい者車両や検診車は、屋根の下に配置しました。